



一緒にやろう！

川崎市立西丸子小学校 校長 筒井愛子

西丸子小学校の梅は、今がちょうど見頃で、北風の冷たい日も、何だか心が温かくなります。職員玄関の扉を開けると、辺りに漂う甘酸っぱい香りが押し寄せてきて、春の息吹を感じます。先日の避難所開設訓練でお会いしたある町会長さんが、こんなことをおっしゃっていました。「そうか、もう梅の季節だね。忙しいと、季節の移り変わりを見逃してしまうよ。」どの町会長さんも、月予定等を拝見しますと、ご多忙な様子が本当によく分かります。「合間を縫って、自分のことをする」のだそうです。「せめて、西丸子の梅で癒されてください。」とお伝えしました。

さて、最近、西丸子小では、「一緒に」が流行っています。たくさんの「一緒に」がありますが、一つは、委員会活動です。あいさつ運動や募金活動、「〇〇調べ」などは、「元祖巻き込み型」です。スタンプラリーを通して、読書や植物などに親しめるよう、全校児童を巻き込む方法もあります。他にも、「〇〇大会」のようなイベントを企画し、楽しみながら体力づくりを広める方法をとるなど、どの委員会の児童も、「みんなでやろうよ。」という気持ちがあふれています。さらに、それを、TV朝会やお昼の放送で伝える姿は、生き生きとしていて、応援したくなります。

もう一つの「一緒に」は、学年同士の交流です。1年生と6年生の交流は定番で、昔から続けている学校が多いため、皆様もよくご存じのことと思います。最近、それ以外の交流が、いろいろなところで見られます。これは、まだ年が明ける前ですが、5年生の総合的な学習の時間に行った「お祭り」に、4年生が招待されたことがありました。4年生にとっては、サプライズだったようで、ある子は、「すっごく楽しかった。」と言っていました。先日は、2年生の「町たんけんの発表」を、6年生が熱心に聞き入る姿がありました。クイズに正解できなかった6年生に、したり顔で、「残念！」と伝える2年生。それに、「うーん、難しい。」と返す6年生。何だか、そのやり取りが微笑ましく、見入ってしまいました。その次に見たのは、3年生の異文化について調べまとめたプレゼンテーションを、5年生が見てアドバイスをしている場面でした。先生のような表情の5年生が、「ここは分かりやすいね。」と助言をする様子は、とても和気あいあいとしていました。さらい、いつも「してもら側」だった1年生ですが、先週、保育園児や幼稚園児の訪問を受け、GIGA 端末等で校内の様子を示しながら、先輩らしく、学校のことを伝えていました。

これらは最近の話ですが、実は、今に始まったことではありません。西丸子小には、いつもこのような雰囲気があります。もうすぐ6年生は卒業しますが、きっと、これまでの卒業生の間でも、ずっと受け継がれてきたものなのだと思います。言葉や文書でのやり取りではなく、こういう雰囲気を、しっかりと下級生に引き継いでいる6年生、それを受け取った5年生、今、どちらも輝いています。これからもこの素晴らしい伝統が受け継がれることを願っています。

さて、本年度の教育活動も、終わりに近づいています。このように、どの学年の子ども達も、その子なりに前を見て、心身ともに進級の準備をしています。このように穏やかな気持ちで年度を終えることができますのも、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力、ご支援のおかげです。1年間、本当にありがとうございました。来年度も、変わらぬご支援とご協力を、よろしくお願いいたします。